



この冬はしっかりと寒く、子ども達の冷たい手に触ると静電気がびりびり！どんなに寒くても、外で遊びたい子ども達が愛おしいです。そしてここまでインフルエンザはほとんど皆無、風邪でお休みもとても少なかったもので、嬉しい限りです。

発表会が無事終わり、今年も本当に素敵な作品ができました。予期せぬ事態も発表会の最中に起こっても、子ども達が自分の頭で考えて問題解決したり、友達をさりげなくフォローしたりすることを目にしました。そんな時に、幼稚園生活の経験で培われた子ども達の力を感じるのです。困っている友達は自然に助けられる、素敵なシーンを何度も見せてもらいました。

ひとつの劇を作り上げる、という共通のイメージと音楽で、どんな子も自分の思う通りに表現できるこの作品づくりはまさに世界にひとつだけのものです。

支援の必要なお子さんも一緒に、行ないました。発表会には出ない、とお決めになった保護者の方もいらっしゃる。それもひとつの表現として受け止めています。色んな表現方法を、認めていける世の中であって欲しいです。臼井幼稚園は、色んな子どもがいて、みんな違ってみんないい。かっこいい理念とか、「こういう子を育てます」とか、机上の理想は不要だと思っています。子ども達はみんな生きていて、煌々しい。粹にはめられないからこそ美しいのです。

アクティブラーニングと文科省が推進している学校教育は英会話もタブレットも取り入れてはいますが、本当に一人ひとりが得意なことを好きなように伸ばせる環境にあるのか？疑問を覚えずにはられません。

幼稚園では年長の3学期頃に、個性がぐっと出てきます。私の感覚ですが、際立ってくるのが3学期、もっと早い子ももちろんいます。そうすると、もう卒園を迎えます。寂しくて晴れやかな旅立ちの日。この個性をどんどん伸ばして行って欲しいです。そのためには、親御さんのお子さんへの向き合い方が大変大切です。全面的に自分を受けて入れてくれる親御さんがいるからこそ、子どもは社会でもやっていけるのです。親御さんに信頼され、愛されているからこそ、先生を信頼できる子どもに育ちます。絶対に受容されている子どもは自己肯定感があり、生きていく力が自然に身につきます。

世の中が、お母さま方も働くことを求め、そうしなければ生活するのが難しいように政治が仕向けています。だから保育園を乱立しているのです。そこで抗うにはあまりに無力で、ただただ経済的につらくなるだ

け。。怒りでいっぱいですが、仕方ない。

それでもいい教育を、と臼井幼稚園を選んでくださった皆さまに、いつも感謝しています。これからも努力して参ります。

園長 志田裕美子

＜担任から今月のメッセージ＞

みなさん！！

発表会、いかがでしたか？

前日のホールでは、本番前最後だから気合いを入れていこう！と伝えると、反応が良かったのですが、本番と言う言葉にプレッシャーを感じたのかいつも以上に声が小さく、セリフもズレて、言えないところもあったり……。

さらに、出番を待っている間に裏では道具で遊んでいる子がいたり、友達が泣く良い演技をしているのを笑ってしまったり、裏方の先生たちの雷が落ちてしまったり……。

他のクラスは「良かったよ～」と盛り上がっている中、本番は明日だけど、だ…だ…大丈夫？？？と突っ込んでしまうくらい気持ちがバラバラでした。しかし、幕が閉まる最後のセリフはホールに響き渡っていたので、この気持ちが本番で出せたら良いなあと願いながら、当日を迎えました。

本番スタートの時間までゆとりがあったので、のんびりと色んなことを話し合っていました。

幕が閉まったらスーパーダッシュで制服に着替えることを伝え、今日は時間との勝負だから、着替えが心配だったら次から次へ先生たちが手伝いに来てくれるから、自分で助けて～とお願いしてねと話し、ちなみに手伝いが必要な人～と聞くと、普段から時間がかかっている子が数人手を挙げていたので、周りの目を気にせず、自分の力を理解して、甘えるところは甘えられるようになったんだなあ嬉しさを噛み締めました。他にも、緊張して決めていたペアが来てくれなかったらどうする？と聞くと、「誰もいなかったら近くの人が2人を見てあげる」と頼もしく答えてくれたので、間違えても自信を持ってできることをやろう！！と伝えました。

緊張しても、誰かが声を出してくれたら良いという気持ちは終わりにし、自分が誰かのために声を出してい

＜2 ページへ続きます＞

く気持ちを大事にしてほしいこと、みんなの声が先生のパワーにもなるから力を分けてほしいことなどを伝え、前日の最後のセリフを動画で見せて、みんなの気持ちが1つにお客さんに届いてるのがめっちゃくちゃ凄くない??と盛り上げていきました。「めっちゃいい」「結構良い感じだね」と嬉しそうに見ており、その後の気合い入れも団結しているなあと感じさせてくれました。

本番は、最初から声が出ているなと感じ、私がピアノで不安にさせるわけにはいかないと勝手なプレッシャーに負け、ボロボロな曲もありました。私の緊張が伝わったと帰り際に教えていただき、他にも一緒にドキドキしてくださった方もいらっしまったかもしれません。ごめんなさい。応援してくださった方、ありがとうございました。

みんなは、裏でもしっかり声を出していたようで、今までで1番良かった！最高だった！と、園長や裏方の先生からやっと絶賛の言葉をもらうことができ、「やったー」と喜んでいました。

私も最後のセリフの団結には、涙が溢れそうになりましたが、グッと堪えてみんなの元へダッシュしました。めっちゃくちゃ良かったよーと感動に浸りたいところでしたが、年長は制服に着替えるミッションがあったので、着替えながらどうだったか聞くと、「めっちゃ泣いてる人いた〜」「楽しかった〜」とお客さんを見る余裕もあり、いつも通りの演技もできたと伝えてくれたので、終わった後に裏方の先生たちとビデオを鑑賞し、みんなの演技を堪能しました。実は、本番に強いタイプだったのかあ……と、みんなの真の力を見せてもらったことが嬉しくて感動しました。

「ミニミニは何の役をやろうかな」と、ワクワクしていたので、ミニミニも本番同様、団結力を見せてくれたら……と、妄想で幸せを感じています。が。もしかしたら役決めて、一悶着あるかもしれないなあと覚悟もしながら書いています。

ミニミニが終わると、登園が残り15日！

16日目にいよいよ卒園式です。

発表会のお手伝いで1番大切な時間を離れて過ごすことも多かったので、残りの時間は1秒も無駄にすることなく、一緒に笑い合って過ごしたいと思います。

山口 朱美

